千鷲会だより

千 鷲 会
広報部作成

年頭のご挨拶

千鷲会会長 佐藤 敏博

会員並びに賛助会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。ご家族の皆様と共に輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。皆様から旧年中に賜りましたご支援ご協力に対して厚く御礼申し上げます。

千鷲会会長として『諸先輩が築いて来られた実績や伝統を継承しつつ、環境変化への対応』を、運営の指針として行事等に取り組んでまいりました。会員各位、とりわけ地区幹事並びに広域幹事の役員皆様には、千鷲会だよりや千歳基地新聞の配布並びに年会費の徴収等、地道ではあるものの運営上は大変重要な業務を確実に努めて頂きましたことに対しまして、心より感謝申し上げます。

さて、昨年一年を振り返りますと、年明け早々にトランプ米国大統領が就任して、3月には英国、翌月以降仏国・西班牙とテロのグローバル化が急速に進んでいます。国内では、5月に北朝鮮によるミサイルの連続発射があり、8・9月には遂に北海道上空を通過する事態となり、Jアラートの個人購入も話題になりました。現役の後輩達には、中国・四国地方に対するペトリオット部隊の展開に従事した方もいて、大忙しの一年であったようです。

さらに、年末にかけては日本海沿岸に相次いでの不審漁船の漂着、北朝鮮人の不法上陸が発生し、一国民としても不安を感じています。また、災害においても、線状降水帯という聞き慣れない言葉が多用され、7月の九州北部をはじめとして各地での短時間豪雨による被害や気候の変動による災害も発生しています。私達の現役時代に比べて、脅威や災害の変化や振幅は、急速・増大しているようです。他方、日本人として嬉しくなるような報道もあって、3月春場所での稀勢の里の負傷を押しての逆転優勝、6月には15歳の藤井聡太四段が将棋界で29連勝の快挙を成し遂げ、にわか応援団に任じた次第です。9月には桐生祥秀選手が日本人初の百mで9秒98の記録を樹立し、10月には日本人で26人目となる63歳のカズオ・イシグロ氏がノーベル文学賞を受賞されました。未来を託し得る逞しい若者世代から定年世代の方々まで、年齢にかかわらず世界中で活躍していることを実感し、なんとも明るい気持ちで新年が迎えられました。

千鷲会としては引き続き会員の高齢化に抗しながらも、後輩隊員の活躍を支え千歳基地の安定運営に貢献するため、（勿論、年齢相応ではありますが）力強い存在であり続けたいと思います。このためには、活動の一層の効率化・充実化を検討し、もって会の活性化等に努めて参る所存であります。何卒、会員皆様のペースに応じた持続可能なご支援ご協力を、本年も宜しくお願い致します。

最後になりますが、会員・賛助会員並びにご家族皆様のご多幸とご健勝を祈念申し上げ、新年の挨拶と致します。

秋の叙勲

昨年11月3日千鷲会会員4名が第29回危険業務従事者叙勲を受賞されましたので紹介します。

【瑞宝単光章】
鈴木 雄二 会員
畑田 信也 会員
濱田 健二 会員
矢野 光紹 会員

おめでとうございます

千鷲会「秋の懇親会」

昨年、9月30日千鷲会「秋の懇親会」をANAクラウンプラザホテル千歳に於いて、会員等86名（会員34名、賛助会員12名、基地隊員40名）が参加し開催した。懐かしい友との再会、今話題の社会情勢に触れつつ持ちネタの情報交換と話題は尽きませんが、やはり現役時代の話に花が咲いていた。

今年の干支 戊戌（つちのえいぬ）年とは？

明けましておめでとうございます。新たな抱負を胸に新しい年が始まったことと思います。今年の干支（えと）、戊戌（つちのえいぬ）年について…。

本来、干支と言うのは、十干十二支（じっかんじゅうにし）のことを言います。もっと簡単に言うと十干の「干」と十二支の「支」この二つを合わせて干支と呼んでいます。

今年の干支、戊戌と言うのは十干の5番目「戊」と十二支の11番目「戌」が一緒になって戊戌年となっています。

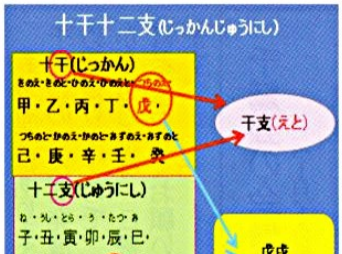
中国から伝来した十二支、身近な動物を当てはめ覚えやすくしていますが、この順番、元旦に神様の所へ到着した順番で決められたと言う話があります。この話の中では猫も居たようですが、猫はネズミに騙され一日遅れた日を教えられ、到着した時には誰もいなく、騙されたことに気づいた猫は怒ってそれ以来ネズミを追いかけるようになったそうです。

皆さんも騙されないよう気を付けましょう。

この十干十二支、年すると一回りするとから還暦といいれた年に帰ります。

還暦に赤い（赤の意味）チャンチャンを贈るのはもう一まれ変わって出直しの祝いの意味が含まているそうです。

戊年の性格や特徴物事に熱心で正義強く、真で忍耐強き者、愛深く、多人から信集めリー



（智慧の申年と